埼玉県立
歴史と民俗の博物館

彩の国埼玉県

THE MUSEUM

Vol. 12-3 第 36 号　2017.12. 1

Saitama Prefectural Museum of History and Folklore

特別展

明治天皇と氷川神社

―行幸の軌跡―

右／初代五姓田芳柳 明治天皇肖像〈部分〉（川越市立博物館蔵）
中央下／埼玉県指定文化財 山田衛居 氷川神社行幸絵巻〈部分〉（武蔵一宮氷川神社蔵）
右背景文字／氷川神社御親祭の詔〈部分〉（武蔵一宮氷川神社蔵）
左写真／氷川神社楼門

明治元年（１８６８）９月、京都を発ち東幸（東京への行幸）した明治天皇は、大宮氷川神社を武蔵国の鎮守・勅祭の社と定め、１０月２８日に行幸（天皇の外出）し御親祭を執り行いました。

それから１５０年。平成２９年１０月、氷川神社では明治天皇御親祭１５０年祭が盛大に行われました。

本特別展では、明治１５０年を記念して、明治天皇の氷川神社行幸の歴史を紹介します。

明治天皇の東幸

慶応４年７月１７日、江戸が東京と改称され、明治天皇の東幸が定まりました。一向が京都を出発したのは９月２０日、明治天皇は鳳輦（天皇専用の御輿）に乗り、岩倉具視や木戸孝允ら３，３００人余りが供奉し東京に行列を進めました。道中では、伊勢神宮を遥拝、熱田神宮を御親拝し、沿道の神社には奉幣使を派遣させ、また住民に対しては長寿者・孝行者を慰労・褒賞し、農作業を天覧するなど、天皇の皇威を示しました。

明治天皇収穫叡覧図〈部分〉（熱田神宮蔵）

明治天皇は、明治元年１０月１３日に江戸城に入り、これを東京城と改称します。市中には御酒が配られ、祭礼のごとく賑わったといいます。

この東幸にあたっては、行列の様子を描いた錦絵が数多く版行されました。これらは、江戸時代の将軍や大名の行列図を参考に絵師の空想で描かれたものでしたが、庶民の評判を呼び多くの錦絵が販売されました。徳川将軍の行列から天皇の行列への視覚的変化は、庶民にとっても権力者の交替を実感させたのでしょう。

明治天皇御東幸千代田城御入城之図（品川区立品川歴史館蔵）

氷川神社行幸

東幸の後、明治天皇は１０月１７日に、明治政府の祭政一致の方針、そして氷川神社を武蔵国の総鎮守、勅祭社（天皇が祭る神社）と定める詔を発します。さらに同月２８日には、氷川神社へ天皇自らが参拝することが決まりました。氷川神社が勅祭社に選ばれたのは、武蔵国一宮であったこと、そして桓武天皇が平安遷都の際に王城鎮護の神として賀茂神社に行幸したことに倣ったものと言われています。

こうして幕末維新の歴史の舞台に、突如として氷川神社が登場することとなったのです。

氷川神社御親祭の詔（武蔵一宮氷川神社蔵）

１０月２７日に東京城を発った明治天皇は、中山道を進み、戸田の渡しを「船橋」（船を繋いだ橋）で渡り、蕨宿で御小休（休憩）、浦和宿本陣に宿泊し、翌日に氷川神社に行幸しました。この際、行在所（天皇の仮の御所）を務めた家々には、明治天皇御下賜の品が今でも伝わります。

明治天皇下賜かわらけ（板橋区立郷土資料館蔵）

この行幸の行列を目の当たりにし、その様子をつぶさに描いていた人物がいます。後に川越氷川神社の宮司となる山田衛居です。衛居は、行幸の様子を「氷川神社行幸絵巻」（県指定文化財）に仕立て、明治２６年（１８９３）に氷川神社に奉納しました。行幸絵巻は現在、氷川神社の御神宝となっています。

埼玉県指定文化財 氷川神社行幸絵巻〈部分〉（武蔵一宮氷川神社蔵）

明治天皇の行幸により、氷川神社は勅祭社としての道を歩み始めましたが、一方でそれまでの氷川神社のあり方に大きな変化をもたらしました。

氷川神社では、それまで男体宮（須佐之男命）・女体宮（稲田姫命）・簸王子宮（大己貴命）の三社をそれぞれ岩井家・角井家（東角井）・角井家（西角井）の三社家が奉斎していました。しかし行幸に先立ち、氷川神社は男体宮が本社とされ、その他は摂社・末社と定められました。それに伴い神主は岩井家が務めることとなり、両角井家は禰宜に位置づけられました。

さらに明治４年（１８７１）には、氷川神社は伊勢神宮に次ぐ社格である官幣大社として、国が祀る神社となりました。その結果、官選の宮司が派遣されることとなり、岩井家は氷川神社からの退去を余儀なくされてしまいます。こうして氷川神社は、地域の神社から国の神社へと形を変えていくこととなったのです。

一方、勅祭社に定められた氷川神社では、明治３年（１８７０）から例祭を勅祭にすることが決まり、勅使（天皇の使者）が発遣されました。現在でも８月１日の氷川神社例祭には勅使が参向し、天皇からの幣帛が献じられ、東游の舞が奉納されています。

明治天皇ゆかりの品々

氷川神社は官幣大社となって以降、地域の方々はもとより、皇室からも崇敬を受け、様々な奉納をうけました。それらの品は現在も神社で大切に伝えられています。本展覧会では、氷川神社に伝わる御神宝の他、明治神宮などに伝わる明治天皇御料（使用）の品や、ゆかりの品を紹介し、明治天皇の足跡を辿ります。

北白川家奉納　明治天皇御料鳳凰置物（武蔵一宮氷川神社蔵）

この他展覧会では、氷川神社で執り行われた御親祭５０年祭、１００年祭の歴史なども紹介します。明治１５０年の記念の年に、氷川神社の歴史を振り返っていただく機会となれば幸いです。

〇関連事業のお知らせ
・講演会Ⅰ　椿田 有希子 氏（神奈川県立公文書館）
「明治天皇の東幸と民衆」
日時：平成 30 年1月20日（土）
14：00～15：30
・講演会Ⅱ　東角井 真臣 氏（武蔵一宮氷川神社権宮司）
「武蔵一宮氷川神社の歴史と明治天皇御親祭」
日時：平成 30 年2月4日（日）
14：00～15：30
※いずれも往復はがきによる事前申し込み。
詳しくは展覧会ポスター・チラシをご覧ください。

（展示担当　中村陽平）